

これまでの取り組みと今後の事業展開

I はじめに

萩まちじゅう博物館

萩にはたくさんの文化財をはじめ、「まちじゅう」に歴史や文化、自然のおたからがあります。それらのおたからを現地でありのままに展示・保存されている資料と考えると、萩のまちは、まるで屋根のない広い博物館＝「まちじゅう博物館」とみなすことができます。

「萩まちじゅう博物館」は、萩に住む人々が萩の魅力を再発見するとともに、萩のまちのおたからを守り育てながら、誇りをもって次世代に伝えていこうというまちづくりの取り組みです。



平成31年3月

Ⅱ これまでの取り組み

1 総括

平成15年6月に「萩まちじゅう博物館整備検討委員会」を設置し、同年10月には「萩まちじゅう博物館構想」を策定、平成16年4月には萩まちじゅう博物館条例を施行しました。そして、平成17年3月に「萩まちじゅう博物館基本計画・行動計画」を策定し、この計画に基づき萩まちじゅう博物館を推進してきました。

これまで市民のみなさんと協働して様々な事業に取り組んできましたが、ここでは構想に謳う4つの取り組みごとに事業の一部を紹介するとともに、主な事業について具体的な活動を報告します。

<萩まちじゅう博物館構想における主な事業>

1) 研究・保存 *1

NPO萩まちじゅう博物館各班の活動、ワンコイントラスト、旧久保田家住宅保存修理、伝統的建造物群保存地区整備の推進、北の総門復元、大照院保存修理、唐樋札場跡整備、萩・明倫学舎整備、世界文化遺産保全推進 など

2) 展示・情報発信・活用 *2

萩博物館企画展・特別展の開催、文化財施設の公開活用、萩の昔話を紙芝居で上演、まちあるきマップ、パンフレット、冊子の作成 など

3) 拠点整備と周辺整備 *3

萩博物館の整備、旧山中家・旧山村家住宅整備、旧小林家住宅整備、萩三隅道路、小郡萩・山陰自動車道整備、橋本川の遊歩道整備 など

4) 「心のふるさと・萩」のおもてなし *4

NPO萩まちじゅう博物館の設立、NPO萩観光ガイド協会の設立、「着物ウィーク in 萩」、「萩・竹灯路物語」、「萩城下の古き雛たち」、「萩オーブンガーデン」の開催 など

*1 萩の資源であり魅力である歴史や文化はもとより、自然、産業、暮らしを研究し、歴史的環境や自然環境が破壊されるのを未然に防止する方策を探求するとともに、市民と市が一体となり、愛着、誇りをもって保存運動に取り組めます。また、広く他地域、諸外国の人々にも理解を得ながら賛同者の輪を広げ、その信託（トラスト）によって土地や建物などの保全・保存・修復などを進めていきます。

*2 保全・保存された歴史的環境および自然環境を、現地において、その価値を損なわないように正しく展示します。さらにそうした情報を発信することにより、市民が萩を再発見し、その新たな価値を見だし活用できる仕組みを創り出します。

*3 萩博物館をまちじゅう博物館の中核施設として位置づけるとともに、地域にある資源を地域博物館として整備し、ネットワークで結びます。また、全国から萩、萩博物館から地域博物館、地域博物館から地域博物館などを結ぶアクセス道路と、地域博物館の周辺には歴史・文化・自然の探索路として発見の小径を整備します。

*4 萩にはいつも変わらないという安心感があります。いわば日本の「心のふるさと」なのです。この「心のふるさと・萩」を訪れた人々が「もう一度萩に行きたい」と思うような、そして彼らを迎え入れた市民が「萩に住んで良かった」「萩を終（つい）の住処（すみか）にして良かった」と日々思えるような、そんなおもてなしをまちじゅうで推進します。

萩まちじゅう博物館構想

2 主な取り組み

NPO萩まちじゅう博物館の育成と協働

萩まちじゅう博物館を市民の手で推進する団体として、市及び市民有志により設立されました。

【組織概要】

- ① 会員数 約 200 人（田邊信理事長）
- ② 所在地 萩市堀内 355 番地（萩博物館内）
- ③ 設立年月日 平成 16（2004）年 6 月 18 日（9 月 16 日認証）

【主な活動】

- ① まちじゅう博物館の拠点施設である萩博物館を年中無休で運営
受付、ガイド、案内、清掃、守衛、学芸補助、展示制作、レストランとショップの経営など
- ② まちじゅう博物館を市民レベルで推進
英文観光パンフレットの発行、石碑と偉人の墓の調査、萩の昔話を紙芝居で上演、ワンコイントラストの推進、「昔のおもちゃで遊ぶ広場」の開設、博物館レストランで萩の食材を使ったオリジナル料理を提供、ミュージアムショップで萩の古地図などのオリジナルグッズを販売、地球温暖化の影響を調べるタカラガイの調査を萩博物館と共同で実施、古地図でまち歩きツアーの実施など

【今後の取り組み】

- ① サテライトやトレイルの創出とサテライト間の連携
- ② 文化遺産の再発見とデータベース化
- ③ まちかど解説の推進



日本ユネスコ協会連盟 プロジェクト未来遺産に登録！

平成 25 年 12 月、NPO 萩まちじゅう博物館の「萩のおたからにみんなで親しみ、みんなに広めるプロジェクト」が、「第 5 回プロジェクト未来遺産」に登録されました。おたから（文化遺産）を持つ地域の人々や若者や子どもたちも含めた市民と力を合わせ、萩のおたからを守り、育て、伝えていくための具体的な発展性のある活動を通じて、人々のゆるやかなつながりを醸成し、萩まちじゅう博物館の取り組みを市民により広げていこうとする活動が、「プロジェクト未来遺産」の趣旨に合致すると認められたことによるものです。

プロジェクト未来遺産とは、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟が、100 年後の子どもたちに長い歴史と伝統のもとで豊かに培われてきた地域の文化・自然遺産を伝えるための「未来遺産運動」の一環で行うもので、失われつつある文化や自然を未来に伝える市民の活動を「プロジェクト未来遺産」として登録し、それを推進する人と地域を日本全体で応援するものです。



NPO萩観光ガイド協会との協働

萩まちじゅう博物館のおもてなしを推進するため、既存のボランティアガイド団体の会員を中心に新しい団体として設立されました。

【組織概要】

- ① 会員数 約100人
- ② 所在地 萩市呉服町一丁目33番地2号
- ③ 設立年月日 平成19(2007)年1月23日(5月7日認証)

【主な活動】

- ①文化財施設等(市内12か所)の管理とガイド
- ②萩を訪れた観光客に対して、拠点ガイド(松陰神社)と周遊ガイド(市内全体、椿群生林)を実施
- ③市民を対象に「萩観光セミナー・ボランティアガイド講座」の開催
- ④萩城城下町に「萩観光情報センター」を開設

【今後の取り組み】

ガイド会員の拡充



ワンコイントラスト運動の展開(平成17年2月から実施)

萩市固有の都市遺産の保存について、広く他地域又は他国の人々の理解を得ながら賛同の輪を広げ、ワンコイントラスト(100円信託)により、歴史的環境及び自然環境の保存、修復、活用等を行っています。

【これまでに修復等をした物件】

- 第1号物件 井上勝(日本の鉄道の父)旧宅門
- 第2号物件 猿田彦面山車
- 第3号物件 平安古備組のお道具類(大名行列の槍など)
- 第4号物件 御網代車(牛車)
- 第5号物件 英国より長州砲(江戸時代の大砲)の里帰りを実現
- 第6号物件 伊藤博文公先祖の墓碑の修復
- 第7号物件 高杉晋作立志像の建立
- 第8号物件 奇兵隊隊服の再現
- 第9号物件 久坂玄瑞進撃像の建立
- 第10号物件 井上勝立志像の建立

【信託金の累計金額】

約3125万円(平成31年3月現在)



萩ものしり博士検定の実施

まちじゅうにある豊かな自然や歴史、文化のおたからとそれにつわる物語を楽しく学びながら萩のことをより広く・深く知っていただこうと、萩ものしり博士検定（修士・博士の2段階）を平成17年から実施しています。平成18年に初めて誕生した博士の皆さんは「まちかど解説員」として活躍中です。また、平成20年からは、小学生を対象とした「萩ものしり子ども検定」を始めました。平成24年度からは、小学校5・6年生を中心にふるさと学習の一環として検定にチャレンジし、多くの児童が「子どもものしり博士」に認定されています。



【実績】

修士課程				
年度	申込者数	受検者数	合格者数	合格率
H17	250人	234人	213人	91.0%
H18	115人	105人	94人	89.5%
H19	88人	74人	71人	95.9%
H20	81人	70人	56人	80.0%
H21	81人	76人	72人	94.7%
H22	70人	66人	61人	92.4%
H23	94人	89人	85人	95.5%
H24	97人	89人	83人	93.2%
H25	46人	44人	42人	95.4%
H26	55人	49人	46人	93.8%
H27	68人	65人	61人	93.8%
H28	68人	62人	56人	90.3%
H29	48人	42人	35人	83.3%
H30	54人	46人	41人	89.1%
合計	1,215人	1,111人	1,016人	91.5%

博士課程				
年度	申込者数	受検者数	合格者数	合格率
H18	136人	129人	23人	17.8%
H19	89人	81人	32人	39.5%
H20	59人	53人	20人	37.7%
H21	57人	52人	11人	21.2%
H22	39人	36人	11人	30.6%
H23	37人	34人	8人	23.5%
H24	41人	39人	10人	25.6%
H25	38人	33人	10人	30.3%
H26	18人	17人	2人	11.8%
H27	26人	23人	8人	34.8%
H28	32人	29人	9人	31.0%
H29	27人	24人	8人	33.3%
H30	37人	33人	6人	18.2%
合計	636人	283人	158人	27.1%

子どもものしり博士

年度	申込者数	受検者数	合格者数	合格率
H20	67人	65人	51人	78.50%
H21	15人	12人	10人	83.30%
H22	22人	21人	20人	95.24%
H23	58人	57人	43人	75.44%
H24	798人	791人	791人	-
H25	450人	450人	450人	-
H26	440人	440人	440人	-
H27	394人	394人	394人	-
H28	404人	404人	404人	-
H29	368人	368人	368人	-
H30	355人	355人	355人	-
合計			3,326人	



萩・幕末維新検定

平成30年(2018)に「明治維新150年」の節目の年を迎えるにあたり、近代日本の扉を開いた先達の歴史をひもとき、「明治維新胎動の地」として、先達の織りなす「幕末・維新の萩物語」を語り広め、次の世代に語り継ぐための記念事業の一環として「萩・幕末維新検定」を平成25年度から5回に渡って実施しました。

【実績】

初級・入門コース

年度	申込者数	受検者数	合格者数	合格率
H27	177人	156人	139人	89.1%
H28	182人	150人	126人	84.0%
H29	87人	80人	60人	75.0%
合計	446人	386人	325人	84.2%

中級・門下生コース

年度	申込者数	受検者数	合格者数	合格率
H25	410人	353人	204人	57.8%
H26	189人	180人	88人	48.9%
H27	91人	82人	52人	63.4%
H28	95人	87人	59人	67.8%
H29	34人	30人	15人	50.0%
合計	819人	732人	418人	57.1%

上級・師範コース

年度	申込者数	受検者数	合格者数	合格率
H26	104人	100人	49人	49.0%
H27	83人	78人	34人	43.6%
H28	59人	57人	21人	36.8%
H29	103人	96人	46人	47.9%
合計	349人	331人	150人	45.3%



萩の語り部事業

平成 23 年度に、萩ものしり博士検定で博士課程に合格された萩ものしり博士のみなさんに呼びかけ、萩の歴史、文化、自然について、「情熱」「志」を持って物語（ストーリー）として語れる人を育成するという目的で「語り部育成講座」を開催し、10 か月間の講座を修了した 14 名が「萩の語り部」となりました。

依頼された場所（宿泊施設など）へ出向き、萩を訪れる方々へ「話のおもてなし」をするほか、平成 26 年 3 月からは、武家屋敷などを会場に明治維新についてわかりやすく話す「歴史講座」を開催しています。



筋名復活事業

「江戸時代の地図がそのまま使えるまち」と言われる萩のまちには、様々な由来を持った通りの名称「筋名」が約 250 確認されています。市民が慣れ親しんだ筋名を復活することにより、萩に暮らす人々には「萩の歴史と誇り」を再認識していただき、また萩を訪れた人々には世界文化遺産になった萩城下町の風情や情緒を感じていただこうと、様々な事業を展開しています。

【事業概要】

①筋名埋め込みサインの設置(平成 19 年 10 月)

萩城城下町を中心とした地区の道路 57 か所に、筋名や町印入りのブロンズ製プレートを埋め込み

②筋名入りグレーチングの設置

浜崎地区の側溝 7 か所(平成 20 年2月)、川島地区の側溝 4 か所(平成 22 年3月)に、筋名や萩藩の施設名入りグレーチングを設置

③筋名マップの作成(平成 19 年 11 月)

萩の筋名の起源、特徴、由来などを楽しみながら散歩できるマップを作成など



萩データベース公開事業

平成 23 年度に NPO 萩まちじゅう博物館とともに構築した「萩データベース」を平成 24 年 4 月から公開しています。パソコンやスマートフォンからアクセスすると、萩の主な観光地のデジタルデータが登録された「萩観光写真」や「萩の人物」など、萩の歴史・文化・自然に関する情報を知ることができます。



萩ふるさと学習コレクション

平成 27 年度から、萩市内の小中学校の児童・生徒が、「ふるさと学習」で学び、体験し、発表等を行った取組について、「萩ふるさと学習コレクション」として萩データベースに登録し、情報発信しています。ふるさと萩市に誇りと愛着をもつ子どもを育てるとともに、地域に学び地域とともにある学校づくりや萩まちじゅう博物館の推進を図っています。



萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業

平成 25 年度から地域のおたから情報をデータベース化し、それらの情報を活用していくことを目的とした「萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業」に取り組んでいます。

萩まちじゅう博物館に点在するおたから（文化遺産）を地域ごとに調査するとともに、そのおたからをテーマやストーリーでまとめて推薦し市民が認定する「萩まちじゅう博物館おたから総会」、地域のおたからに親しむための地域交流イベントの開催、地域おたからを紹介するマップの発行、萩おたからデータベースの公開などを行っています。



【年度別事業実施地域】

（萩まちじゅう博物館推進委員会の各地区部会単位を基本に実施）

平成 25 年度

浜崎地区、旧松本村地区、旭地域、むつみ地域

平成 26 年度

堀内地区、土原地区、川上地域、福栄地域、三見地区

平成 27 年度

藍場川地区、笠山地区、須佐地域、田万川地域、大井地区

平成 28 年度

椿地区、大島地区

平成 29 年度

江向地区、相島地区

平成 30 年度

見島地区、玉江地区、
山田地区、木間地区



歴史的風致維持向上計画推進事業

平成 20 年 11 月 「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（通称：歴史まちづくり法）」が施行されたことに伴い、萩の歴史的風致を活かしたまちづくりの実現に向けて各種施策・事業に取り組んでいます。

【経 緯】

- 平成 20 年 11 月 「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（通称：歴史まちづくり法）」が施行
 12 月 「萩市歴史的風致維持向上計画」を 3 省（文部科学省、国土交通省、農林水産省）に認定申請
 平成 21 年 1 月 他の 4 市ともに第 1 号認定（中国地方初）



主な事業			
No.	事業名	実施状況	
①	唐樋札場跡整備事業	H20～H22	
②	藍場川整備事業	H20～H21	
③	堀内鍵曲道路整備事業	H20	
④	高質空間形成施設（側溝美化）整備事業	H21	
⑤	既存建造物活用事業（観光交流センター） （玉木文之進旧宅）	H21	
⑥	渡辺蒿蔵旧宅整備事業	H20～H23	
⑦	萩藩校明倫館整備事業	H20～H21、H22	
⑧	観音院観音堂修理事業	H21～H23	
⑨	森井家住宅修理事業	H22～H24	
⑩	歴史的まちなみ看板整備事業	H24～H25	
⑪	旧萩藩校明倫館活用推進事業	H26～H30	

※④、⑤はまちづくり交付金事業（関連事業）

景観行政の推進事業

各地域が育み、培ってきた自然、歴史、文化を継承するとともに、文化遺産や都市遺産を守り、活用するまちづくりを進め、歴史的文化遺産と調和した良好な景観の形成を推進しています。

【経 緯】

- 平成 17 年 3 月 全国で 10 番目、中四国地方で初の景観行政団体となる
 平成 19 年 6 月 萩市景観条例制定、同年 12 月施行
 10 月 萩市景観計画策定、同年 12 月運用開始
 平成 20 年 3 月 萩市屋外広告物等に関する条例制定、同年 10 月施行



世界文化遺産への登録

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が平成 27 年に世界文化遺産に登録されました。世界の宝となったこの萩の資産を確実に将来に引き継ぐために、国や関係団体、専門家等と連携して、計画的に保存整備・活用を進めます。

- 8 県 11 市の 8 エリア 23 資産によるシリアルノミネーション
- 萩の 5 資産は、萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、大板山たたら製鉄遺跡、萩城下町、松下村塾

【経 緯】

- 平成 18 年 11 月 世界遺産国内暫定一覧表入りを目指し、「萩城・城下町及び明治維新関連遺跡群」と「九州・山口の近代化産業遺産群」を文化庁へ提案
- 平成 21 年 1 月 「九州・山口の近代化産業遺産群」がユネスコの世界遺産暫定一覧表に追加記載
- 平成 24 年 5 月 政府が「稼働中の産業遺産又はこれを含む産業遺産群を世界遺産登録に向けて推薦する場合の取り扱い等について」を閣議決定。推薦条件が緩和される。
- 平成 25 年 8 月 推薦候補名称が「日本の近代化産業遺産群 九州・山口及び関連地域」に変更
- 平成 26 年 1 月 政府がユネスコ世界遺産センターへ推薦書(正式版)を提出
- 平成 27 年 7 月 「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が世界文化遺産に登録決定



3 年表

年月	萩市	まちじゅう博物館	施策/法律	
平成 15 年 (2003)	6 月	まちじゅう博物館整備検討委員会を設置	まちづくり総合支援事業	
		⇒堀内・浜崎・藍場川・旧松本村の4部会を設置		
	10 月	萩まちじゅう博物館構想の策定		
		整備検討委員会が推進委員会に組織変更		
	11 月	まちじゅう博物館シンポジウム開催		
		拠点施設・萩博物館が完成		
平成 16 年 (2004)	4 月	萩ものがたり出版	萩まちじゅう博物館条例を施行	
	6 月		NPO 萩まちじゅう博物館設立(6/18)	景観法公布
	8 月		第 1 回まちじゅう博物館推進委員会の開催	
	9 月		NPO 萩まちじゅう博物館認証(9/16)	
	10 月		HP「Web 萩まちじゅう博物館」開設、ガイドブック発行	
	11 月	萩博物館開館	萩まちじゅう博物館開館	
	平成 17 年 (2005)	2 月	ワンコイントラスト運動開始	
笠山部会設置				
3 月		市町村合併(3/6)	まちじゅう博物館基本計画・行動計画策定	
		景観行政団体へ移行		
4 月				まちづくり交付金事業
6 月				景観法全面施行(6/1)
9 月			萩ものしり博士検定公式テキスト発行	
11 月			萩ものしり博士検定開催(11/27、以降毎年 11 月開催)	
平成 18 年 (2006)	2 月		土原部会設置	
	4 月		ワンコイントラスト第 1 号物件・井上勝旧宅門竣工	
	6 月		ボランティアガイド・文化財施設管理の一元化協議開始	
	11 月	世界遺産国内暫定一覧表に「萩城・城下町及び明治維新関連遺跡群」、「九州・山口の近代化産業遺産群」を提案		
	12 月		ものしり博士に「まちかど解説員」を委嘱	
	平成 19 年 (2007)	1 月		NPO 萩観光ガイド協会設立(1/23、5/7 認証)
6 月		景観条例を制定		

	7月		筋名復活事業開始	
	8月		「萩・維新塾」開塾	
	10月	萩市景観計画策定		
	12月	世界遺産国内暫定一覧表に「萩ー日本の近世社会を切り拓いた城下町の顕著な都市遺産」、「九州・山口の近代化産業遺産群ー非西洋世界における近代化の先駆け」を再提案		
平成 20 年 (2008)	3月	屋外広告物等に関する条例制定		
	5月			歴史まちづくり法公布
	6月		萩ものしりブック発行	
	11月			歴史まちづくり法施行(11/4)
平成 21 年 (2009)	1月	「九州・山口の近代化産業遺産群」がユネスコの世界遺産暫定一覧表に追加記載(1/5)		
		まちじゅう博物館の取り組みにより、文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)を受賞		
		萩市歴史的風致維持向上計画の認定(1/19)		
	2月		須佐部会設置	
	4月		文化財施設活用の取り組み開始	
	5月		萩ものしり博士検定新テキスト発行	
	10月		萩まちじゅう博物館銅像建立委員会設置	
平成 22 年 (2010)	2月		旭部会設置	
	10月		高杉晋作立志像建立(ワンコイントラスト第7号物件)	
平成 23 年 (2011)	2月		福栄部会設置	
			NPOまち博が萩おもてなし大賞を受賞	
	4月		萩データベース構築事業開始	
	5月		萩・維新塾 HAGInnovation「論」開塾	
	6月	佐々並市が重要伝統的建造物群保存地区に選定		
			語り部育成講座開講	
	10月		リブコムアワード 2011 にて「まちじゅう博物館の取り組み」を世界に紹介	
平成 24 年 (2012)	2月		川上部会設置	
	3月		萩データベース公開	
	6月		萩の物語記録事業開始	
			萩・維新塾 2012 開塾	
			田万川部会設置	
7月			むつみ部会設置	
	10月	萩市花と緑のまちづくり条例施行		

		萩まちじゅう博物館シンポジウム開催		
平成 25 年	1 月		萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業実行委員会設置	
(2013)	6 月		萩・維新塾 2013 開塾	
	7 月		萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業開始	文化遺産を活かした地域活性化事業(文化庁)
	11 月	中国地方歴史まちづくりサミット開催		
			萩・幕末維新検定テキスト発行	
	12 月		NPOまち博の活動が日本ユネスコ協会連盟のプロジェクト未来遺産に登録	
平成 26 年	2 月		第 1 回萩・幕末維新検定開催(2/23)	
(2014)	3 月		第 1 回萩おたから総会開催	
			「萩の語り部」歴史講座開始	
			萩おたからデータベース公開	
			萩まちあるきマップ発行	
	7 月		萩博物館入館者 100 万人を突破	
	10 月		ヨルダン国サルト市で萩市長がまちじゅう博物館について講演	
	11 月		萩博物館・萩まちじゅう博物館開館 10 周年(11/11)	
平成 27 年	1 月	NHK 大河ドラマ「花燃ゆ」放送開始		
(2015)			久坂玄瑞進撃像建立(ワンコイントラスト第 9 号物件)	
	7 月		ふるさと学習コレクション公開開始	
			「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が世界文化遺産に登録決定	
	10 月		萩市が萩まちじゅう博物館によるまちづくりでアジア都市景観賞を受賞	
平成 28 年	9 月	堀内・平安古伝健地区選定40周年		
(2016)	10 月		井上勝志気像建立(ワンコイントラスト第10号物件)	
平成 29 年	3 月	萩・明倫学舎開館		
(2017)				
平成 30 年	10 月	萩・明治維新 150 年記念式典		
(2018)				

Ⅲ 今後の事業展開

前章の取り組みで紹介したように、市民のみなさんの協力により萩まちじゅう博物館は大いに発展してまいりました。今後も、さらにまちじゅう博物館というまちづくりを推進するため、下記の事業に積極的に取り組みます。

1 地域活動の連携強化とさらなる活性化

NPOや地域ごとの団体によるまちじゅう博物館の活動が活発に行われています。引き続き、まちじゅう博物館の取り組みを進め、萩のおたからを磨き、地域の活性化と市全域での発展につなげていきます。

今後も、NPOまち博をハブ（結節点）として地域団体同士の「つながり」を作り、民間による共同事業の実施により大きな流れにつなげていきます。協働の具体的な例としては、トレイルコースの設計や整備、地域のおたからなど文化遺産の紹介、まち歩きツアーの実施などが考えられます。

2 文化遺産データベースの構築・公開

NPOまち博など、市民による文化遺産のデータの蓄積は進んでいます。また、世界文化遺産登録や歴史的風致維持向上計画に基づく取り組みの中で、既成の文化遺産の情報はまとまりつつあります。

そのような情報の中で、観光情報と結びつきの強いものについては、平成24年4月から「萩データベース」として発信し、地域の文化遺産については、平成26年4月から「萩のおたからデータベース」として公開し、情報の発信や共有を進めています。今後もデータベースの更新・登録を進め、集積されたデータを誰でもが活用できるよう充実を図ります。

3 文化財的施設の活用、遊休史跡地・施設の活用

まちじゅう博物館に数多く残る志士の旧宅など文化財施設は公開され、一部では、施設内で展示やイベントの開催などが行われています。しかしながら、文化財施設の中には公開されているものの活用までは至っていないものもあります。

また、史跡地でありながら、空き地のままの遊休地や、サテライトの重要な場所にありながらも、あまり活用されてこなかった遊休施設もあります。官民共同（PPP・官民パートナーシップ）による取り組みの一層の推進により、新しい仕掛けや機能を持たせることで、新たな観光スポット・サテライト施設としての活用を検討していきます。

4 次世代に継承する人材育成

現在、まちじゅう博物館に関わるNPOや地域団体のメンバーの多くは中高年層です。特にガイドの分野では、高齢化や人材不足などの深刻な問題に直面しています。

まちじゅうに残る遺産を継承することはもちろん、このまちじゅう博物館の取り組みのさらなる発展のためには、若い世代の参画が必要不可欠です。そこで、若者や外部の人材も巻き込んだ協働を進め、語り部の育成、萩の物語の記録、またその次の世代となる子どもたちも含めた「人材育成」と、次世代に継承するしくみづくりに取り組んでいきます。

5 次のしくみづくり

萩藩校明倫館跡に建つ萩・明倫学舎（旧明倫小学校校舎）が新たな観光の「起点」として整備されました。まちじゅう博物館の中核施設である萩博物館とともに、新たな起点から、各地のサテライト（地域博物館）やトレイルにつながる次のしくみづくりを進め、交流・定住人口を増やし、経済効果をもたらすよう質の高い観光や産業振興を目指します。